男性介護ネットひだまり つどい報告書

＜男性介護者と支援者の全国ネットワーク＞

開催日時	平成３１年 ４月 ５日（金曜日）午後１時30分～３時40分	
開催場所	神戸町中央公民館 学習室	報告者：若山 昌之
参加者	10名（内訳：本人１名、介護経験者１名、男性介護者５名、家族の会世話人１名、包括スタッフ２名）	

○ 特養入所の要介護-５の奥さんを抱えるＡさん、昨年12月頃から今迄には無かった不可解な行動（施設内を動き回り他者の部屋へ出入りする、よく怒る、等）が見受けられ、施設の紹介で当地方の認知症疾患病院で診察を受け投薬を暫く続けた。

結果は、症状の改善が見られないとのことで、入院を強く勧められ已む無く入院を了解した。入院後は家族と言えども１週間は面会禁止。面会は病室への入室は認められず面会室で、時間は 30 分以内で１週間後の最初に面会した時は唖然とした。体幹の衰えが目立ち自力歩行は当然できず看護師介助で車椅子で表れてビックリ仰天した。

入院の成果は、特養施設に戻った時点でないと判りませんが、少なくとも入院前と同様に自力歩行ができ、症状も些かなりとも改善された状態で退院できることを願っていると話される。仮に今の状態での退院だとすると何の為の入院だったか１人間としての尊厳が侵され人権問題に関わることではと心配されている。

○ 今年１月に要介護-３の奥さんを亡くされ一人暮らしになられたＢさん、男性介護者の集いに初めて参加され、今の心境を語られる。アルツハイマー型認知症と診断され、亡くなる迄の８～９年の間には色々なことがあり、時には包丁を投げ捨てられる等の異常行動も見られ一時期精神科医に入院した事もありましたが、週３回のデイの利用以外は在宅で共に過ごし、一抹の寂しさが甦り、２人揃っていられた幸せを改めて痛感し、手持ち無沙汰の毎日だと話される。

○ 要介護-１の奥さんを抱えるＣさん、前々から認知機能の低下もさることながら体幹の衰えを心配されていた矢先に、転倒を繰返したことで専門医の脳神経外科に診て貰ったら外傷性硬膜下血腫と診断され、即入院手術を行った。本人は入院治療中の厥骨は全くなくベッドで動き回り病院スタッフを手こずらかし身体的拘束を受けた。（手袋、抑制帯、睡眠薬）拘束は本人の興奮を強いるばかりで、当初１週間の入院期間を点滴が終った時点の５日目に主治医に退院を申し出て許可が得られた。抜糸は退院２日後に行った。

認知症患者の入院時等の対応につき考えさせられる 一例であった。

次回開催予定 ５月 10 日（金曜日）午前１時 30 分～ 凡そ２時間
場 所：神戸町中央公民館 学習室
※期日が会場の都合で１週間延期の10日に変更しています。

（つどい報告書 FAX：2019/04/07）